

京都大学 アフリカ地域研究資料センター
 /アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ地域研究専攻

この資料は、アフリカ地域研究資料センターおよびアフリカ地域研究専攻の研究者むけに作成した説明資料を、ホームページ公開用に改変したものです。この資料は予備知識を得るために使用し、実際の予防注射の接種、およびマラリアの予防薬・治療薬の服用については、かならず、国内・外の医師および薬剤師の指示を受けてください。

1) 予防注射について

アフリカには日本にはない熱帯病が存在します。放っておけば死にいたる病気もありますが、ワクチンを打つことで罹患を回避できる病気もあります。ここでは、推奨される予防接種の種類をご紹介します。

同時接種可能なワクチンと接種間隔をあげなくてはならないワクチンがあります。とくに、はじめてアフリカに渡航される方は、医師と接種スケジュールを相談する必要があるため、渡航3か月前から準備することが推奨されています。医療機関によってはワクチンが不足して予約がとれないこともありますので、準備は早めに開始することをお勧めします。

<推奨される接種>

種類	回数	1回目と2回目の間隔	有効年	備考
破傷風	2	約1ヵ月	4~5年	半年後に追加接種(3回目)することで10年間有効、その後は10年ごとに1度の接種。
A型肝炎	2	約1ヵ月	6~12ヶ月	1年以内の追加接種(3回目)で3~5年有効。
B型肝炎	2	約1ヵ月	6~12ヶ月	1年以内の追加接種(3回目)で3~5年有効。
狂犬病	3	2回目:初回接種から1週間 3回目:初回接種から21日	6~12ヶ月	毎年接種が望ましい。
黄熱病	1	—	10日目~10年	

<国によっては必要な接種/上記ほどではないが推奨される接種>

種類	回数	1回目と2回目の間隔	有効年	備考
腸チフス	1	—	3年	アフリカ全土で広く発生が確認されている

ポリオ	1	—		西アフリカ海岸地域、特にナイジェリアに行く場合接種が推奨される。 定期接種を受けているが、幼児期の接種が不明な人は3回。昭和50～52年生まれの人は獲得免疫が低いため、接種が推奨される
髄膜炎	1	—	5年	髄膜炎ベルトに行く人は注意。 突発的に流行する。後遺症が残る

2) マラリア予防薬・治療薬について

※ 近年予防薬・治療薬として広く使用されている医薬品のみを掲載しています。すでに広く耐性株が認められているもの（商品名ニヴァキン、マララキン、ファンシダール等）、重大な副作用が確認されているもの（商品名ファンシダール、ハルファン等）に関しては記載していません。

薬品に対する耐性株の発生もあるので、医薬品を入手する際、医師や薬剤師から最新の情報を入手するとともに、それぞれの薬品の用法や副作用、禁忌等も含めた詳細をかならず確認ください。

【重要なこと】

1. 薬の有効期限を確認すること。とくにアルテミシン系は有効期限が短い。
2. 病院から遠いところに行く人は、2種類の治療薬をもつようにすること。
3. 日本に薬を持ちかえて常備薬とすること。とくに、現地でマラリアにかかった人は再発の可能性があるので十分に注意すること。
4. 帰国後に、予防内服を1ヶ月間は続けること。

成分	商品名	服用方法 (50kg 以上の人の場合)	備考
予防薬			
ドキシサイクリン Doxycycline	ドキシサイクリン、 ビブラマイシン	1日1回1錠	耐性株があるとの噂 副作用が少なく、安価
メフロキン Mefloquine	メフロキン、メファキン、 ラリアム	1週間に1回1錠	悪夢、下痢、体重減少などの副作用が多数確認されているが、効果は高い。 体にあわない場合

			は使用しない
アトバコン+プログアニル Atovaquone+proguanil	マラロン ※2013年2月～国内でも販売開始	1日1回1錠	予防薬として第一選択される。耐性株も確認されていないが、高価
治療薬 ※あくまで一時的なスタンバイ治療として。すみやかに医療機関を受診すること			
アルテミシン+ルメファントリン Artesunate/Artemether+lumefantrine	コアルテム、リアメット	初回、8、24、36、48、60時間後各4錠、計6回（全24錠）服用	治療薬として多くの院生が使用している。副作用が少ないといわれるが、家族や本人に突然死や先天性心疾患がある場合禁忌。
アトバコン+プログアニル Atovaquone+proguanil	マラロン ※2013年2月～国内でも販売開始	1日1回4錠を3日間	現時点では治療薬として最善との意見が多い。副作用が概して軽度で、耐性株がないとされている。コアルテムとともに持つのがおすすめ。
メフロキン Mefloquine	メフロキン、メファキン、ラリアム	初回2錠、6～8時間後に2錠	精神疾患（てんかん、精神病など）をもつ人には禁忌。
キニーネ quinine	キニーネ	静脈注射	最終的な治療薬。病院で投与してもらうこと。激しい吐き気など副作用が確認されている。予防薬としてメフロキンやクロロキンを服用していた場合、医師にその旨、必ず申告する。

【マラリアの予防・治療に関して参考になるウェブサイト】

- ・ 東京大学医学研究所 「輸入感染症各論 マラリア」 <http://www.idimsut.jp/didai/didai04-09.htm>
(最終閲覧日 2015年3月13日)
- ・ 狩野繁之(2011)「わが国のマラリアー今どのようにして治療するか」モダンメディア 57(11): 299-308.
http://www.eiken.co.jp/modern_media/backnumber/pdf/MM1111_01.pdf